

狭山市の顔、だから
笑顔で親切に正確に迅速に
市民課はこんな業務を心がけます



少しでも私たち市民が気分よく市民課を利用できるよう、「親切に、正確に、迅速に」をモットーに、毎日忙しい業務をこなしているとのこと。

REPORTER'S EYE

【リポーター】
緑川真由美さん(祇園在住)



リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがレポートします。

誰もがたいてい一度は利用する
そんな部署が市民課です

市民課は、戸籍や住民票、印鑑登録に関わる事務、妊娠届、仮ナンバー申請など幅広い業務を行なっている重要なセクションです。きつと皆さんも車を購入するときに印鑑登録証明をとったり、資格試験を受けるときなどに戸籍謄本や抄本、住民票の写しをとったりした経験があると思います。そのとき「謄本と抄本の違いって？住民票と戸籍の違いは？本籍記載の住民票？印鑑登録は何のためにするの？どんなふうに登録するの？印鑑証明のとり方は？」と、いろいろな疑問が渦巻いていたのではないのでしょうか。市役所などの公的機関は何となく分かりづらい印象がありますね。私も「もう少し簡単に手続きができたらいいのに。」と思ったことも

あります。今回はこのような疑問点をお聞きし、これから利用するかたが迷わないようにご紹介します。

まず、戸籍謄本と抄本の違い。謄本は戸籍の全ての写しで、抄本はその一部分だけの写しです。では、戸籍と住民票の違いとは何でしょうか。戸籍とは個人の身分事項の証明で、人の出生から死亡までが全て入るものです。例えば「いつどこで出生し、だれが届出」などといった具合です。戸籍は日本国内で地番のあるところならどこに置いてもしっかりと現在住んでいる場所ではないところに本籍がある場合もあるという事です。ただし戸籍謄本・抄本は本籍のある市区町村でしかとれませんので、現住所ではない場所に本籍がある場合、とるのに時間がかかる場合があるそうです。それに対し、住民票は住民登録に基づき、「そこに住んでいる」という証明になるものです。「本籍記載の住民票」と指定のあることもあります。が、この場合は住民票をとるときに



電話で確認してから窓口へ。
市民課 ☎53-1111、内線139~141

本籍記載の有無を「有」にすればよいそうです。そして印鑑証明。これは個人の印鑑を実印として公に登録すること、その印鑑登録証明書をもらうこと、本人であることを証明するもので、非常に重要なものです。とり方や登録方法など詳しくはこの広報紙の8~10頁に掲載してありますのでご覧くださいとのことでした。

最近住民票や印鑑証明があれば借金もできてしまうので、これらを悪用されると知らないうちに他人にお金を借りられてしまったり、登記してあった自分の土地を売却されてしまったりという犯罪もあるそうです。ですから、市民課では住民票や印鑑登録、証明書類の発行などには特に細心の注意を払い、そのための手続きに多少の時間や手間が必要になつてしまうこともあるとのことでした。なお、これらの証明書は出張所でもとれるようになり、また市役所の開庁時間内に電話で予約をしておけば住民票と印鑑証明の受け取りは土日でもできるなど、できるだけ市民サービスの向上に努めていただいているとのことでした。何か証明書が必要になり、手続きの仕方や何を持参すればいいのかなど分からないことがあったら、遠慮なく問い合わせしてほしいとのことでした。

これを読んだ皆さんが市民課に理解を深め、少しでも「お役所仕事で取っつきにくい。」というイメージを変えてもらえたらいいですね。

音楽は「音楽王国」の共通の言葉
私はその言葉で皆さんに
話しかけ、語りかけるんです

HITO

マリオ 鈴木さん
(ギタリスト、作曲家)



狭山市内にあるお店でのライブのひとつ。マリオ鈴木さんは皆さんがもっと身近にラテン音楽を感じてもらうように、市内でもさまざまな活動を行っています。

「私が弾くのはほとんどオリジナルなんです。なぜかって？そうですね、演奏家ではないから。芸術家は自分の言葉を持つべきだ」という文句がありますが、まったくその通りです。私は音楽家でありたい。他人の作曲した曲を演奏するだけでは、他人の詩を朗読しているだけだと思えます。だから自分で曲を作り、そしてその音から聴く人に何かを語りかけ、イメージを広げてもらいたいと思っています。」と語るマリオ鈴木さん。独学でギターの演奏を習得され、作った曲はすでに300曲以上。オリジナルティを大切にしながらたつた一人でその世界を歩いてきました。

その音色をベネズエラ駐日大使のフェルナンド・バエス・ドゥアルテやスペイン駐日大使カミロ・バルシアはこう称賛しています。「わがラテン音楽の魂がある」「世界のどここの国

そんなマリオさんが大切にしているのは自然との調和。大海の前に自分の世界に入り込み、作曲するのが習慣です。そしてその自然に恩返しをする意味でも、コンサートなどの収益の一部をその地方の緑化基金などに寄附しています。「小さいころ過ごした信州の山や自然がとても懐かしいですね。私の中で自然の思い出とともに優しく厳しかった祖母の記憶がとても大切なものなのです。」

来年3月には市民会館でコンサートを開催します。皆さんもぜひ、世界の巨匠が褒め称える音を聴きにいらしてみませんか。



大好きな国スペインで、足元から何から、全てが絵はがきのように美しい国ですよ。」

私の趣味

写真

羽部嘉子さん 狭山台



智光山公園の池の白鳥と目が合った瞬間。お気に入りの一枚です。椿ま和紙を敷いて自分で演出してみました。

私の本職はピアノ教師ですが、時折発明なども楽しんでます。創意工夫をあらゆる面で取り入れていく独自の発想で自分らしい個性ある人生を楽しむことを一番大切にしているのです。

そんな私が小さいころからとても好きだったのが花や動物たちでした。わが家には桃梅、山吹、椿など四季折々に咲き誇る草花がたくさんあり、私の心を魅了しました。花たちは真夏の炎天下の暑さにめげず、朝の光が射し始めると一斉に目覚めます。あの可憐な松葉ボタンのハーモニーは57年たった今でも私の胸に何かを語りかけ、脳裏に焼きついていきます。無言の花々の優しい微笑と調和のとれた色彩、そして両親の深い愛情などが私の人生にどれ程素晴らしい原動力になったかしれません。今後とも大自然の不思議さと神秘性に包まれながら毎年咲き誇る花たちへの感動を自分だけの写真に撮り続けながら、充実した日々の中にもう一回のおいのある人生をと今日もフラインダーをのぞくのです。